



# 週間情報



No.0811

発行日 令和8年3月17日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

## 消防本部の動き

### 訓練

#### ◆ 都市型ロープレスキュー統一化に係る説明会を実施

#### 八千代市消防本部（千葉）

八千代市消防本部では、令和8年2月17日（火）、18日（水）の2日間、都市型ロープレスキュー統一化に係る説明会を実施しました。

この説明会は、新たに救助隊員に任命された職員への指導体制を構築するとともに、今後起こりうる大規模災害に備えることを目的として実施したものです。

両日は、座学研修と救助技術訓練を行い、当市が保有するロープレスキュー資器材の正しい取り扱い要領、訓練方法、救出システムの統一化を図ることができました。

この説明会を通じて、隊員間の認識の相違を防ぐとともに、活動上の安全管理の徹底を図ることができ、要救助者の安全・確実・迅速な救出につながることを期待されます。

今後も、訓練を継続し、隊員一人一人の救助技術の向上を図るとともに、救助活動の幅をさらに広げてまいります。



【説明会の様子】

## ◆ 関係機関と合同で林野火災訓練を実施

### 久米島町消防本部（沖縄）

久米島町消防本部では、令和8年2月19日（木）、久米島工業開発株式会社と締結した「災害時における消防用水の確保に関する協定」に基づき、同社および久米島町消防団と合同で、林野火災訓練を実施しました。

この訓練は、水利の確保が困難な場所における林野火災に備えるため、同協定に基づく消防用水の確保要領を確認するとともに、関係機関との連携強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、「水利の確保が困難な場所で林野火災が発生した」との想定で、同社が保有するコンクリートミキサー車から消防用水の供給支援要領を再確認し、より効果的で確実な消火活動につなげることができました。

今後も、消防職員、消防団員、関係機関が相互に連携し、地域に密着した防災体制の充実強化を図るとともに、当町の安全・安心の確保に努めてまいります。



【訓練の様子】

## ◆ 関係機関と合同で林野火災防ぎょ訓練を実施

### 湖西市消防本部（静岡）

湖西市消防本部では、令和8年2月22日（日）、湖西市内において、湖西市消防団および静岡県西部生コンクリート協同組合と合同で、林野火災防ぎょ訓練を実施しました。

当日は、「大規模林野火災が発生した。」との想定で、消防団との中継送水体制の確立方法、同協同組合による消火用水の運搬要領、災害時情報共有システムと消防庁映像共有システムを活用したDX環境下における情報共有体制を確認しました。

今後も、訓練を継続し、林野火災の対応力の向上を図るとともに、地域の安全・安心の確保に努めてまいります。



【訓練の様子】

## ◆ 警防練成会を実施

### 鳥取県東部広域行政管理組合消防局（鳥取）

鳥取県東部広域行政管理組合消防局では、令和8年2月26日（木）、27日（金）の2日間、令和7年度警防練成会を実施しました。

この訓練は、最先着隊小隊長の現場指揮能力の向上を図るとともに、屋内進入活動マニュアルと車両誘導マニュアルの検証を目的として実施したものです。

当日は、各消防署から選抜された5隊20人が参加し、「木造2階建て住宅から出火した。」との想定で、安全・確実・迅速な消防活動をシナリオ型で実施しました。

今後は、本訓練で得られた課題を基に、各マニュアル改正の検討を進め、さらなる消防力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

## 研 修

### ◆ 「火災調査専門研修（車両構造）」を実施

### 福山地区消防組合消防局（広島）

福山地区消防組合消防局では、令和8年2月17日（火）、広島県立福山高等技術専門校において、当消防本部の火災調査員を対象とした「火災調査専門研修（車両構造）」を実施しました。

会場となった同校は、自動車整備をはじめ、電気や建築などの高度な専門技能を持つ技術者を養成する県立の職業能力開発施設です。

この研修は、近年、電気自動車（EV）やハイブリッド車（HV）の普及により、車両構造は複雑化の一途を辿っていることから、同校が有する専門的な知見や設備を消防実務に反映させることを目的として、官学連携の枠組みで実施したものです。

当日は、実車を用いた構造解説を通じて、発火源の特定手法や最新の安全装置に関する知識を深めました。

こうした専門機関との積極的な連携は、火災原因の迅速かつ正確な究明に繋がるものであり、地域の防災体制をより強固なものにすることが期待されます。



【研修の様子】

## ◆ 「女性消防吏員活躍推進研修会」を開催

### 若狭消防組合消防本部（福井）

若狭消防組合消防本部では、令和8年2月20日（金）、定期的に実施している職員研修の一環として、女性職員および管理職員を対象とした、「女性消防吏員活躍推進研修会」を開催しました。

当日は、当消防本部職員に加え、隣接する敦賀美方消防組合消防本部（福井県）、舞鶴市消防本部（京都府）、福井県警察本部小浜警察署の職員が参加し、総務省消防庁女性消防吏員活躍推進アドバイザーである神奈川県大和市消防本部の岩崎紀江氏を講師としてお招きして、「女性消防吏員の活躍と働きやすい職場環境づくり」と題し、ご自身の経験談も交えながらご講義いただきました。

また、研修会終了後、同講師と女性職員が座談会を行い、抱えている不安や悩み、課題について共有するとともに、講師からアドバイスをいただきました。

今後も、同様の研修会を通じて、誰もが安心して働きやすい環境づくりに努めてまいります。



【研修会の様子】



【研修会後の記念撮影】

## ◆ FCBを活用した燃焼実験訓練を実施

### 村上市消防本部（新潟）

村上市消防本部では、令和8年2月24日（火）、村上消防署朝日分署において、FCB（フアイヤー・コントロール・ボックス）を活用した燃焼実験訓練を実施しました。

この訓練は、経験の少ない職員の火災進展への理解を深め、消火技術の向上につなげることを目的として実施したものです。

当日は、3部構成で訓練を行い、第1部の座学では、建物構造などについて理解を深めました。

第2部では、安全な環境下において、FCBを活用した実践形式の燃焼実験を行い、開口部の条件変化による延焼速度の違いやフラッシュオーバー、バックドラフトなどの危険現象を再現したほか、通気口からの冷却放水が室内環境に与える影響を検証し、煙の冷却が戦術上いかに重要であるかを確認することができました。

第3部では、最終段階として訓練の振り返りを行い、実験で得た知見を実際の火災現場における状況判断にどうつなげるかについて話し合いました。

この訓練を通じて、火災メカニズムをリアルタイムで観察することができ、隊員の安全管理能力と冷静な判断力を養う貴重な機会となりました。

今後も、訓練を継続し、現場対応力のさらなる強化に努めてまいります。



【訓練の様子】

## ◆ 「次世代のリーダー育成・ハラスメント防止研修」を実施

利根沼田広域消防本部（群馬）

利根沼田広域消防本部では、令和8年2月24日（火）、消防士長以上の階級にある職員を対象とした、「次世代のリーダー育成・ハラスメント防止研修」を実施しました。

この研修は、リーダーとしてのハラスメントの未然防止を図ることを目的として実施したものです。

当日は、危機管理防災アドバイザーである株式会社アームレスキューの田中章氏を講師としてお招きし、最近の災害事例などを踏まえ、消防独自のリーダー育成とハラスメント防止についてご講義をいただきました。

今後は、この研修で学んだ教育方法や指導の在り方などを実践し、職員同士の信頼を深めるとともに、ハラスメント撲滅に努めてまいります。



【研修の様子】

## ◆ 電気自動車（EV）に関する消防活動対応講習を実施

羽島市消防本部（岐阜）

羽島市消防本部では、令和8年2月26日（木）、電気自動車（EV）に関する消防活動対応講習を実施しました。

この講習は、電気自動車（EV）の普及に伴い、高電圧バッテリーの存在や再燃リスクなど、従来の車両とは異なる危険要因への理解が求められることから、多様化・高度化する災害事案に適切に対応することを目的として実施したものです。

当日は、日産自動車株式会社の田中孝二氏および森山恵介氏を講師としてお招きし、座学において、電気自動車（EV）の構造や事故・火災発生時の留意事項などについてご講義いただきました。

また、車両構造などについて実車を用いてご説明いただき、実践的な災害対応力の向上につなげることができ、有意義な講習となりました。

受講者からは、「危険要因を体系的に理解できました。」、「実車から学ぶことで具体的なイメージを持つことができました。」などの声が寄せられました。

今後も、社会情勢の変化に即した知識・技術の習得に努めるとともに、安全・確実な消防活動体制の強化に努めてまいります。



【講習の様子】

## ◆ 「人財育成勉強会」を開催

つくば市消防本部（茨城）

つくば市消防本部では、令和8年2月16日（月）、27日（金）の2日間、「人財育成勉強会」を開催しました。

勉強会には、約70人の職員が参加し、第28回全国消防救助シンポジウム発表者の当消防本部職員が講師となり、発表テーマであった「火災時における救助活動対応能力の向上」を基に、組織の根幹をなす「人財育成」について講義を実施しました。

また、講義後にグループワークを行い、「目的・目標・主眼の考え方」、「自ら考えて動く組織づくり」の大切さを学びました。

今後も、継続的に研鑽の場を設け、強固な組織体制の確立と人財育成の推進に努めてまいります。



【勉強会の様子】

## ◆ 「大規模火災に関する職員研修会」を開催

北アルプス広域消防本部（長野）

北アルプス広域消防本部では、令和8年2月27日（金）、「大規模火災に関する職員研修会」を開催しました。

この研修会は、近年、各地で発生している大規模火災を鑑み、「飛び火警戒要領」の見直しや「林野火災注意報・警報」の条例制定に係る知識の研鑽と、地域防災関係者との情報共有を図ることを目的として開催したものです。

当日は、職員、消防団幹部、県危機管理部職員など約60人が参加し、特定非営利活動法人日本防火技術者協会理事長で工学博士の関澤愛氏を講師としてお招きして、大船渡市や大分市の大規模火災において「消防防災のあり方検討会」の座長を務めた経験を基にご講演いただきました。

この研修を通じて、飛び火による山林火災の拡大動態や消防活動の要点、火災注意報・警報の制定について、貴重な学びを得ることができました。

今後も、地域の防災関係者との情報共有や知識の研鑽を重ね、地域の安全、安心への貢献に努めてまいります。



【研修会の様子】

## ◆ 消防職団員合同で令和7年度警防研修会を実施

### 鳥取中部ふるさと広域連合消防局（鳥取）

鳥取中部ふるさと広域連合消防局では、令和8年2月27日（金）、消防職団員が合同で、令和7年度警防研修会を実施しました。

この研修会は、大規模災害の発生に伴う緊急消防援助隊の災害出動件数が増加傾向であることから、応援・受援活動における対応能力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、消防職団員約170人が参加し、広島市消防局警防部警防課消防機動担当課長の後谷英夫氏を講師としてお招きして、「緊急消防援助隊の受援体制と安全管理体制の強化」と題し、今治市林野火災における応援活動や平成30年7月の豪雨に伴う受援活動など、実体験、教訓、事例を交えてご講演いただきました。

今後も、組織一体となって受援対応力の向上と安全管理文化の醸成を図るとともに、災害対応力の強化に取り組んでまいります。



【研修会の様子】

## ◆ 「第2回災害対応研修」を実施

### 袋井市森町広域行政組合袋井消防本部（静岡）

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部では、令和8年3月5日（木）、管理監督者を対象とした「第2回災害対応研修」を実施しました。

当日は、今年度1回目に引き続き、元陸上自衛官で静岡県危機管理指導参与の小平隆弘氏を講師としてお招きし、大規模災害時における「情報」をどのように管理・共有し、判断につなげていくかや効果的な情報整理の方法について、講師ご自身の豊富な経験を踏まえ、具体的にご講義いただきました。

全国的に大規模災害の発生頻度が高くなる中、今後も、組織の災害対応力強化を図ってまいります。



【研修の様子】

## その他

### ◆ 消防協力者に感謝状を贈呈

#### 伊勢市消防本部（三重）

伊勢市消防本部では、令和8年2月18日（水）、消防協力者の中学生6人に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、令和8年2月4日（水）、下校途中に火災を目撃した消防協力者の6人が連携し、現場近くの消火栓およびホース格納庫のホースなどを活用して、延焼危険のある建物へ有効な放水を行い、被害の拡大を防止したものです。

消防協力者6人が、地域の安全のために迅速かつ的確に行動した功績を称え、感謝の意を表しました。



【感謝状贈呈の様子】



【感謝状贈呈後の記念撮影】

### ◆ 消防協力者に感謝状を贈呈

#### 比企広域消防本部（埼玉）

比企広域消防本部では、令和8年2月19日（木）、消防協力者の2人に対して、消防長から感謝状と記念品を贈呈しました。

本事案は、令和7年11月4日（火）、飲食店内で突然倒れて心肺停止となった60歳代男性に対して、同飲食店の店長と従業員である消防協力者の2人が連携し、迅速な119番通報、絶え間ない胸骨圧迫を行い、救急隊に引き継いだものです。

男性は、消防協力者2人の迅速・的確な行動と途切れることのない「救命の連鎖」により、社会復帰することができました。



【感謝状贈呈後の記念撮影】

## ◆ 消防協力者と消防協力団体に感謝状を贈呈

### 柏崎市消防本部（新潟）

柏崎市消防本部では、令和8年2月25日（水）、消防協力者と消防協力団体に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、令和7年9月20日（土）、市内施設のトレーニングルームを利用中に心肺停止となった男性に対して、施設を利用していた消防協力者、消防協力団体施設職員の3人、現場に居合わせた当消防本部職員が連携し、119番通報、胸骨圧迫、AEDを活用した除細動を迅速かつ的確に行い、救急隊に引き継いだものです。

男性は、救急隊到着時には心拍が再開しており、消防協力者の途切れることのない救命の連鎖により、医療機関での入院加療を経て、無事に社会復帰しました。



【感謝状贈呈後の記念撮影】

## ◆ 消防協力者と消防協力団体に感謝状を贈呈

### 小山市消防本部（栃木）

小山市消防本部では、令和8年2月26日（木）、消防協力者と消防協力団体に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、令和7年12月25日（木）、市内中学校において、心肺停止となった傷病者に対し、発見した同校生徒が早期に教職員に報告するとともに、教職員と連携して、119番通報、胸骨圧迫、AEDを活用した除細動を的確に行い、救急隊に引き継いだものです。

傷病者は、医療機関での入院治療後、無事に社会復帰しました。

生徒および教職員の迅速かつ適切な判断と勇気ある行動に、感謝と敬意を表します。



【感謝状贈呈後の記念撮影】

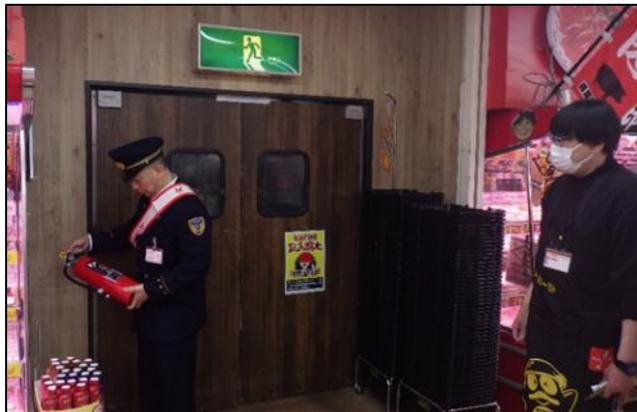
## ◆ 消防長による大型商業施設の特別立入検査を実施

### 小牧市消防本部（愛知）

小牧市消防本部では、令和8年2月26日（木）、春季全国火災予防運動を迎えるに当たり、大型商業施設の「ピアレ桃花台」において、消防長による特別立入検査を実施しました。

これは、同施設が約30店舗が出店する大型商業施設であり、多くの市民が利用していることから、防火管理体制の強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、立ち会った防火管理者に対し、大型商業施設などで火災が発生した場合、来店客の多くがパニックに陥りやすいことから、日常から施設内の通路や避難口の管理の徹底とスプリンクラー設備などの消防用設備等の維持管理について指導しました。



【立入検査の様子】

## ◆ 民間企業と合同で防災教室を開催

### 松本広域消防局（長野）

松本広域消防局では、令和8年2月18日（水）、イオンモール松本において、イオンモール株式会社と合同で、小学生を対象とした防災教室を開催しました。

この防災教室は、災害時に防災拠点となる同施設と当消防局丸の内消防署が連携し、地域の子どもたちの防災意識の向上を図ることを目的として開催したものです。

当日は、119番通報装置を用いた通報訓練、消火器取扱訓練、簡易担架作成搬送訓練、煙道体験、防火衣着装体験、救急車搭乗体験を実施したほか、クイズ形式による防災学習を行いました。

参加した子どもたちからは、「普段体験できないことをして、防災について楽しく学びました。」との声を聞くことができました。

今後も、災害が起きる前の準備の重要性と災害時の正しい判断力を身に付ける取り組みを推進してまいります。



【防災教室の様子】

## ◆ 「とよかわ消防フェスタ2026」を開催

### 豊川市消防本部（愛知）

豊川市消防本部では、令和8年2月21日（土）、イオンモール豊川において、「とよかわ消防フェスタ2026」を開催しました。

このイベントは、市民に「防火・防災・救急への関心」を高めていただくことを目的として開催したものです。

当日は、消防車両の展示や消防に関する各種体験コーナーを設けたほか、ポッカレモン消防音楽隊（名古屋市消防局）、岐阜市消防音楽隊（岐阜市消防本部）、とよかわ吹奏楽アカデミー（市民団体）、当市消防音楽隊が2部制で合同演奏を行い、会場は大いに盛り上がりました。



【イベントの様子】

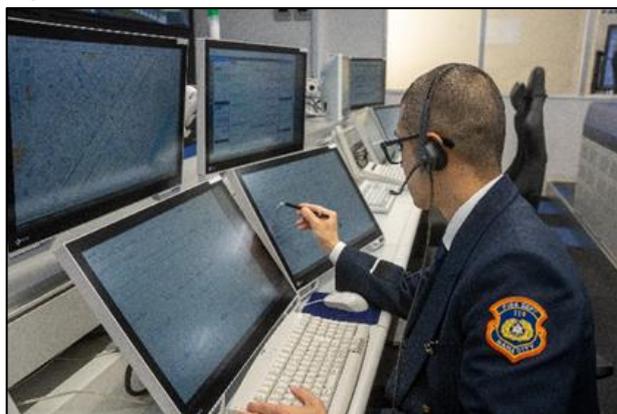
## ◆ 新高機能消防指令システム完成お披露目式を実施

### 那覇市消防局（沖縄）

那覇市消防局では、令和8年2月21日（土）、高機能消防指令システムおよび消防救急デジタル無線更新事業の一環として、新高機能消防指令システムが完成したことに伴い、お披露目式を実施しました。

当日は、高所カメラの配備にご協力いただいた関係機関に対する表彰を行ったほか、那覇市長によるシステム点灯式、映像伝送システムを活用した訓練を実施しました。

今後も、今回整備したシステムを軸に消防DXを推し進め、業務の効率化を図るとともに、安全・安心のまちづくりに一層取り組んでまいります。



【新高機能消防指令システムの様子】

## ◆ 新救急車のお披露目会を実施

### 和泉市消防本部（大阪）

和泉市消防本部では、令和8年2月22日（日）、和泉消防署において、令和7年度更新車両である新救急車のお披露目会を実施しました。

この救急車は、本市在住・在学の小学生、中学生を対象に、「救急車の正しい使い方」をテーマとした救急標語を募集し、最優秀賞に選ばれた救急標語を車両後部窓にカットニングシートで掲示しています。

当日は、最優秀賞に選ばれた方とご家族を消防署へ招待してお披露目会を行い、新救急車と対面した標語作成者ご家族にとっても喜んでいただけました。

なお、来年度も引き続き、「和泉市救急標語コンクール」を実施する予定です。

今後も、「必要なときに。必要なひとへ。救急車が届くまち」を目指し、救急車の適正利用を促進してまいります。



【標語作成者（小学校2年生）  
と新救急車の記念撮影】



【救急標語掲示の様子】

## ◆ 春季火災予防運動イベントを開催

### 仙台市消防局（宮城）

仙台市消防局では、令和8年2月27日（金）、春季全国火災予防運動を迎えるに当たり、イオンモール新利府南館において、宮城県庁、当消防局、塩釜地区消防事務組合消防本部、黒川地域行政事務組合消防本部が合同で、春季火災予防運動イベントを開催しました。

このイベントは、住宅防火啓発、林野火災予防の強化、林野火災注意報・警報の周知を図ることを目的として、県内で初めて、同県庁と各消防本部が連携し開催したものです。

当日は、多くの方に参加していただき、大船渡市大規模林野火災対応で活用したウォーターゲジャケットや消防ヘリ用の消火バケットの展示、現場活動写真や動画の公開などを実施しました。

また、マスコットキャラクターによる林野火災予防〇×クイズや各消防本部の防火衣ファッションショーなど、来場者が楽しみながら学べる多彩な企画を行いました。

このイベントを通じて、林野火災の多くが人的要因によって発生していることや林野火災注意報・警報の仕組みについて、市民理解を深める貴重な機会となりました。



【イベントの様子】

## ◆ 「梅まつり de 防災フェス」に参加

### 東京消防庁（東京）

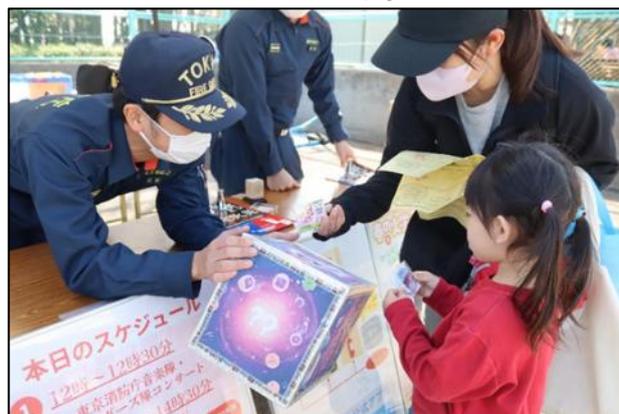
東京消防庁世田谷消防署では、令和8年2月28日（土）、羽根木公園において開催された「梅まつり de 防災フェス」に参加しました。

当日は、当イベントにおける初の試みとして、音楽隊によるコンサートを行い、陽気な曲に合わせて東京消防庁マスコットキャラクター「キュータ」もノリノリで登場し、来場者が「胸骨圧迫メドレー」などの演奏に笑顔で手拍子をする和やかな空間となりました。

また、初期消火、応急救護、子供用防火衣装着の体験コーナーを設けたほか、当署オリジナル缶バッジくじを用意し、当たりが出た方に防災グッズをプレゼントするなど、多くの方で賑わいました。

早春を求めて公園を訪れた多くの外国人も参加し、言葉や文化の違いを越えて、防災の大切さを共有する一日となりました。

今後も、梅の花のようにやさしく地域に根付く取り組みを進めてまいります。



【イベントの様子】

## ◆ 消防少年団員と合同で林野火災予防啓発登山を実施

### 福岡市消防局（福岡）

福岡市消防局では、令和8年2月28日（土）、管内の油山において、翌3月1日からの「林野火災注意報・警報」制度の開始を迎えるに当たり、福岡市早良消防少年団員と合同で、「林野火災予防啓発登山」を実施しました。

当日は、消防少年団員21人が参加し、早朝まで降った雨の影響で肌寒く、足元が悪い中でしたが、山頂を目指しながら、すれ違う登山者一人一人に元気いっぱい声をかけ、林野火災防止に関するチラシを手渡しました。

また、「山火事注意」の看板を見つけては、文字が見えやすくなるように清掃を行いました。

このイベントを通じて、多くの市民の皆さまに「林野火災予防」を呼びかけることができ、子どもたちにとっても大変有意義な防火啓発活動となりました。



【イベントの様子】

## ◆ 火災予防コラボイベントを実施

### 奈良市消防局（奈良）

奈良市消防局では、令和8年3月1日（日）、春季全国火災予防運動の一環として、マクドナルド阪奈宝来店において、奈良市マクドナルドフランチャイジーとプロバスケットボールチームのバンビシャス奈良との火災予防コラボイベントを実施しました。

当日は、多くの親子が参加し、バンビシャス奈良のマスコットキャラクター「シカッチェ」と奈良市消防局キャラクター「なっぴい」が登場して、子どもたちと一緒に消防車との記念撮影を楽しみました。

また、ミニフリースロー体験や消防防火衣の着用体験などの会場では笑顔があふれ、消防士の仕事を身近に感じながら防火の大切さを学んでいただくことができ、地域の皆さまに防火意識を高めていただく貴重な機会となりました。



【イベントの様子】



【「シカッチェ」「なっぴい」との記念撮影】

## ◆ 「長野須坂消防指令センター」の運用開始式を実施

### 長野市消防局（長野）

長野市消防局では、令和8年3月2日（月）、「長野須坂消防指令センター」の運用開始式を実施しました。

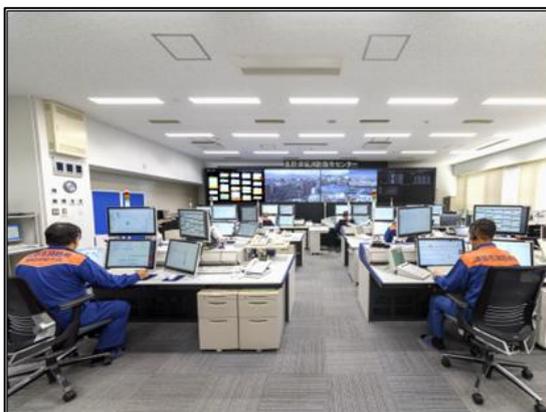
この指令センターは、高機能消防指令情報システムの全面更新に併せ、隣接する須坂市消防本部との共同運用を開始したものです。

当日は、両市の市長をはじめ、両市へ消防事務を委託している町村長も出席し、除幕式を行った後、新たに導入した「映像通報システム」による模擬通報訓練を参観していただきました。

今後は、両市消防職員の協力体制を整えるとともに、より迅速・的確な出動指令と大規模・広域災害に対する対応力を強化し、地域住民の皆さまの安全・安心の確保に努めてまいります。



【除幕式の様子】



【新指令センターの様子】

## ◆ 保育施設でブラインド型煙避難訓練を実施

加古川市消防本部（兵庫）

加古川市消防本部では、令和8年3月2日（月）、春季全国火災予防運動の一環として、管内の保育施設において、ブラインド型煙避難訓練を実施しました。

当日は、スモークマシンを活用して園舎に煙を発生させ、「いつ」「どこで」起こるか分からない火災の状況を再現し、施設職員は突然始まったブラインド型の訓練に戸惑いながらも、懸命に自衛消防活動を行っていました。

また、園児たちは、ドキドキしながらも日ごろの訓練の成果を発揮し、迅速かつ的確に避難することができました。

訓練後のフィードバックでは、施設職員から「いつも“当たり前”になっていることを見つめ直すきっかけになりました。」との意見をいただき、一步踏み込んだ訓練が行えたと実感することができました。

今後も、災害に強いまちづくりを目指して、さまざまな訓練を計画し、火災予防に努めてまいります。



【訓練の様子】

## 消防学校からの便り

### ◆ JR東日本株式会社大宮支社長より感謝状を受贈

埼玉県消防学校

埼玉県消防学校では、令和8年2月24日（火）、JR東日本株式会社大宮支社から感謝状を受贈しました。

当校は、同社が実施する「現地責任者対応力向上に向けた勉強会」に、令和6年度から講師として計4回参加し、鉄道現場における初動対応力の向上と地域の安全確保に寄与することを目的として、出席者に対して特別講義を行ってきました。

この特別講義を通じて、当校としても実践的な知識と経験を共有する貴重な機会となりました。

当日は、この取り組みに対し、JR東日本株式会社大宮支社の石井支社長から感謝状を受贈しました。

今回の表彰を励みに、今後も、関係機関との連携を一層深めるとともに、地域の安全・安心の確保に努めてまいります。



【感謝状受贈後の記念撮影】



【特別講義の様子】

## ◆ 県内高度救助隊震災対応連携訓練を実施

### 青森県消防学校

青森県消防学校では、令和8年2月26日（木）、解体予定である青森県消防学校の旧校舎を活用した県内高度救助隊震災対応連携訓練を実施しました。

この訓練は、大規模災害への対応力の向上と相互の連携強化を図ることを目的として、初めて実施したものです。

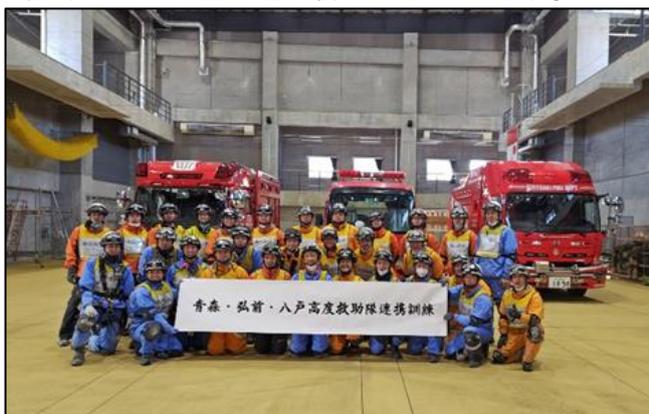
当日は、青森地域広域事務組合消防本部、弘前地区消防事務組合消防本部、八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部から計30人の隊員が参加し、各隊の保有資機材の確認後、「地震で建物が倒壊した。」との想定で、ブリーチングからの進入・救出訓練などを実施しました。

また、通常とは異なるメンバーで小隊を編成し、実際の建物の壁や床を破壊する実践的な訓練を行ったことで、活動要領について共通認識を深めることができ、非常に有意義な訓練となりました。

今後も、より効果的な教育訓練を実施し、災害対応力の向上などに努めてまいります。



【訓練の様子】



【訓練後の記念撮影】

## 国等の動き

### 消防庁通知等

#### ◆ 消防法施行規則の一部を改正する省令等の公布等について

(消防予第59号、令和8年3月6日)

消防庁次長から各都道府県知事、各指定都市市長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

消防法施行規則の一部を改正する省令（令和8年総務省令第23号。以下「改正省令」という。）、駐車の用に供される部分に設ける泡消火設備のうち、当該部分における火災の拡大を初期に抑制することができるものの性能等を定める件（令和8年消防庁告示第2号。以下「新告示」という。）、消防用設備等の点検の基準及び消防用設備等点検結果報告書に添付する点検票の様式の一部を改正する件（令和8年消防庁告示第3号。以下「改正告示3号」という。）、消防用設備等試験結果報告書の様式の一部を改正する件（令和8年消防庁告示第4号。以下「改正告示4号」という。）及び消防法施行規則第四十四条の二第二項第二号及び別記様式第九号備考三の規定に基づく自主表示対象機械器具等に係る技術上の規格に適合するものであることを確認した試験結果に係る様式並びに試験の方法及び試験に使用した設備に関する事項の一部を改正する件（令和8年消防庁告示第5号。以下「改正告示5号」という。）が令和8年3月6日に公布されました。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

([https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/260306\\_yobou\\_59.pdf](https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/260306_yobou_59.pdf)) に掲載されています。

◆ **消防法施行規則の一部を改正する省令等の運用について（通知）**

**（消防予第 8 3 号、令和 8 年 3 月 6 日）**

消防庁予防課長から各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

本日公布した消防法施行規則の一部を改正する省令（令和 8 年総務省令第 23 号）及び駐車用の用に供される部分に設ける泡消火設備のうち、当該部分における火災の拡大を初期に抑制することができるものの性能等を定める件（令和 8 年消防庁告示第 2 号）による改正後の消防法施行規則（昭和 36 年自治省令第 6 号。以下「規則」という。）第 18 条に基づく駐車用の用に供される部分に設ける泡消火設備の運用等について、下記のとおり留意事項をまとめましたので通知します。  
—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

（[https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/260306\\_yobou\\_83.pdf](https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/260306_yobou_83.pdf)）に掲載されています。

◆ **消防用設備等の点検要領及び試験基準の一部改正について（通知）**

**（消防予第 8 4 号、令和 8 年 3 月 6 日）**

消防庁予防課長から各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

本日公布した消防用設備等の点検の基準及び消防用設備等点検結果報告書に添付する点検票の様式の一部を改正する件（令和 8 年消防庁告示第 3 号）及び消防用設備等試験結果報告書の様式の一部を改正する件（令和 8 年消防庁告示第 4 号）に併せて、「消防用設備等の点検要領の全部改正について」（平成 14 年 6 月 11 日付け消防予第 172 号。以下「点検要領」という。）及び「消防用設備等の試験基準の全部改正について」（平成 14 年 9 月 30 日付け消防予第 282 号。以下「試験基準」という。）の一部を下記のとおり改正しましたので通知します。  
—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

（<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/60e6e9191533099869bb8c33ddea6a4a32601508.pdf>）に掲載されています。

◆ **林野火災警報発令時等における警察と連携した火災予防の徹底について（通知）**

**（消防予第 8 5 号、消防特第 4 3 号、令和 8 年 3 月 6 日）**

消防庁予防課長、消防庁特殊災害室長から各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

林野火災警報・林野火災注意報の発令等については、すでに多くの市町村において火災予防条例を改正し運用を開始しているところであり、消防庁では、「林野火災に対する警戒の強化について」（令和 7 年 12 月 22 日付け消防特第 258 号）により、各地域において防災担当部局、林務担当部局、廃棄物処理担当部局等との連携による林野火災の予防の徹底をお願いしているところです。

このような中、本年は、特に太平洋側地域を中心として全国的に記録的な少雨の状況となり、大規模な林野火災も複数発生しております。

これらの状況を踏まえ、林野火災の予防をより一層徹底する観点から、下記のとおり警察との連携を図られるようお願いいたします。

一以下省略一

○ 全文は、消防庁ホームページ

([https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/260306\\_yobou\\_85-tokusai\\_43.pdf](https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/260306_yobou_85-tokusai_43.pdf)) に掲載されています。

**【問い合わせ先】**

消防庁特殊災害室 広富、緑川、星野

電話：03-5253-7528（直通）

E-mail: tokusaishitsu@soumu.go.jp

**報道発表**

◆ **消防法施行規則の一部を改正する省令（案）等に対する意見公募の結果及び改正省令等の公布**

**（令和 8 年 3 月 6 日、消防庁）**

消防法施行規則の一部を改正する省令（案）等について、令和 7 年 12 月 24 日（水）から令和 8 年 1 月 27 日（火）までの間、意見を公募したところ、9 件の意見の提出がありました。この結果を踏まえて、本日、「消防法施行規則の一部を改正する省令」等を公布しましたのでお知らせします。

一以下省略一

○ 全文は、消防庁ホームページ

([https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/260306\\_yobou\\_1.pdf](https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/260306_yobou_1.pdf)) に掲載されています。

**（事務連絡先）**

消防庁予防課 服部補佐、松下

TEL 03-5253-7523（直通）

E-mail: yobo\_atmark\_soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を「\_atmark\_」と表示しております。送信の際には「@」に変更してください。

◆ 緊急消防援助隊の出動に係る総務大臣感謝状贈呈式及び消防庁長官賞状授与式

(令和8年3月10日、消防庁)

令和7年の岩手県大船渡市林野火災及び愛媛県今治市林野火災に緊急消防援助隊として出動した全国15都県大隊に対し、総務大臣から感謝状の贈呈を行うとともに、211消防本部、15道県(消防防災航空隊)に対し、消防庁長官から賞状の授与を行います。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/20d33003d1c0e9d10f619566c134102d917115cc.pdf>) に掲載されています。

連絡先 消防庁広域応援室 上田課長補佐、藤江係長、鈴木事務官、谷川事務官 TEL 03(5253)7569
--

## 情報提供

### ◆ 住宅用火災警報器の実態調査結果について

一般社団法人日本火災報知機工業会

設置義務化から約20年、「点検」と「交換」が未浸透  
約70%が「設置から10年で交換」を知らない  
「まだ動くから大丈夫」69.5%という過信が住宅防災の死角に

一般社団法人日本火災報知機工業会は、住宅用火災警報器（住警器）に関する実態調査を実施した。住警器は2006年に設置義務化が始まり、現在は多くの住宅で設置から約20年が経過している。

#### 1 高齢者に集中する住宅火災被害

令和6年中の住宅火災による死者は1,030人。そのうち65歳以上は779人で、全体の75.6%を占めている。（出典：消防庁）

超高齢社会の進行に伴い、住警器が正常に作動するかどうかが生死を左右する重要性はますます高まっている。

#### 2 設置義務は認知、しかし交換は未認知

- ・設置義務を「知っていた」……65.0%
- ・「設置後10年が交換目安」を知らなかった……71.1%

設置の認識は一定程度浸透している一方で、「10年を目安に本体交換」という推奨は十分に知られていない。さらに、交換推奨を知った後も「早めに交換しようと思う」と回答した人は18.3%にとどまった。

#### 3 最大の壁は「まだ動く」という過信

- ・交換を急がない理由として、「まだ正常に作動していると思う」…69.5%
- 約7割が自己判断により交換を先送りしている実態が明らかになった。

#### 4 点検不足と劣化進行

- ・点検方法を知らない……66.9%
- ・非正常率は16年経過8.7% → 19年経過12.4%へ上昇

外観では劣化が分かりにくく、「設置して安心」という認識がリスクにつながる可能性がある。

#### 5 結論

住警器は「設置」段階から「点検・交換」段階への意識転換が進んでいないことが明らかとなった。

設置後10年を目安とした本体交換と、定期的な作動確認の徹底が急務である。

#### 6 今後の対応方針

同工業会は、消防機関との連携強化、公式HP・X・SNS広告などを通じて、「設置後10年を目安に交換」、「定期点検の習慣化」の重要性を継続発信していく。

詳細はこちら→



お問い合わせ先

一般社団法人日本火災報知機工業会

TEL：03-3831-4318（担当：河合）

Mail：[kawai@kaho.or.jp](mailto:kawai@kaho.or.jp)

## ◆ 令和8年度J I A M研修の開催案内について 「消防職員のための外国人とのコミュニケーション」

### 全国市町村国際文化研修所

現在の日本では、在留外国人や訪日外国人旅行者は年々増加しています。  
みなさんは、事故や災害などの救助・救急活動において、外国人を迅速・的確に救援救助できますか？

全国市町村国際文化研修所（J I A M）では、そのお役にたてるように、以下の研修を行っています。

#### 1 研修日程など

##### (1) 研修日程

令和8年5月26日（火）から6月5日（金）までの  
11日間

##### (2) 研修対象

消防職員（自治体の防災担当職員含む）

※語学(英語)レベル不問

##### (3) 受講経費

概ね50,000円

##### (4) 申込方法

J I A Mホームページ(<https://www.jiam.jp>)内の「研修Web申込フォーム」から期限内（令和8年4月18日まで）にお申込み下さい。



#### 2 研修の特徴

(1) 非常時において、外国人とのコミュニケーションはより難しくなります。円滑な救援救助につながるため、各国の文化、宗教的背景、外国人住民の状況や声など知り、対応力を鍛えます。

(2) ロールプレイングを取り入れ、けがをした外国人に対し、英語で様子を確認するなど、実際の状況を再現することにより、生きた英語、使える英語が体得できます。

(3) コミュニケーションツールの活用方法を学び、現場対応スキルを向上させます。

#### 3 受講者の声

・「実際に日本で有数の外国人対応をしている消防本部の話を聞いたのがとても良かったです。（勤務歴18年）」

・「講師の難しくも楽しい講義のおかげで外国語への恐怖感が消え、学習意欲がさらに湧きました。（勤務歴3年）」

#### 【研修広報ポスター】

[https://www.jiam.jp/workshop/report/img/08\\_R8shoubou20260106.pdf](https://www.jiam.jp/workshop/report/img/08_R8shoubou20260106.pdf)



#### 【研修ちらし】

<https://www.jiam.jp/workshop/doc/2026/26210/tr26210.pdf>



#### 【研修Web申込フォーム】

<https://4d2.jiam.jp/ApplicationForm/Main?id=26210>



#### 【問い合わせ先】

(公財)全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(J I A M) 教務部  
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 (<https://www.jiam.jp>)  
電話：(077) 578-5932 Mail：[kyomu@jiam.jp](mailto:kyomu@jiam.jp)

## ◆ 第65回火災科学セミナーの開催予定について

### 公益社団法人日本火災学会

平素より、日本火災学会にご指導とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当学会では、毎年火災科学セミナーを開催し、火災科学の振興と普及に努めているところです。今年はいいたま市と大阪市の2会場において、各消防局のご指導とご支援の下、開催を計画しております。

テーマ・講師などにつきましては現在調整中ですが、本セミナーに多数の皆さまがご参加いただけますよう、開催日時、開催場所（大阪会場は未定）、参加料について事前にご案内申し上げます。

#### 1 東日本会場（さいたま会場）

##### (1) 開催日時

令和8年11月20日（金） 13時00分から17時00分まで

##### (2) 開催場所

浦和コミュニティセンター（埼玉県さいたま市浦和区東高砂町11番1号）

#### 2 中部・西日本会場（大阪会場）

##### (1) 開催日時

令和8年10月23日（金） 13時00分から17時00分まで

##### (2) 開催場所

大阪府大阪市内の会場で開催予定

#### 3 参加料

(1) 会員、賛助会員（当該団体に勤務する職員を含む。）、後援団体職員および消防職員  
3,000円

(2) 一般（非会員）  
5,000円

#### 4 その他

(1) お申込み方法は、8月下旬に当学会ホームページ（<https://jafse.smoosy.atlas.jp/ja>）にてご案内をさせていただきます予定です。

(2) お申込みは、インターネットでPayvent（ペイメント）を利用して、ご自身にて参加登録と事前決済を行っていただく予定です。

(3) 参加者へはPDF講演資料のダウンロードリンクを事前にご案内する予定です。

#### 連絡先

公益社団法人日本火災学会 事務局長 谷内

E-mail : [kasai50@sepia.ocn.ne.jp](mailto:kasai50@sepia.ocn.ne.jp)

## ◆ 「第35回全国救急隊員シンポジウム」横浜開催のお知らせ

横浜市消防局

全国救急隊員シンポジウムは、毎年、我が国の救急体制の一層の振興を図る一助として開催しており、今年度の第34回大会では、熊本県熊本市において開催されました。

次回、令和8年度の「第35回全国救急隊員シンポジウム」は、神奈川県横浜市で開催します。

横浜市での全国救急隊員シンポジウムの開催は、平成14年度の第11回大会以来、実に24年ぶりです。

横浜市は、多くの観光スポットや多様な食文化、全国からのアクセスの良さなど、観光地としても魅力ある都市の一つです。

是非、横浜市での「第35回全国救急隊員シンポジウム」にお越しいただき、「救急のみらい」につながる意義深い議論を通じて、救急業務のさらなる充実と発展につなげていきましょう！

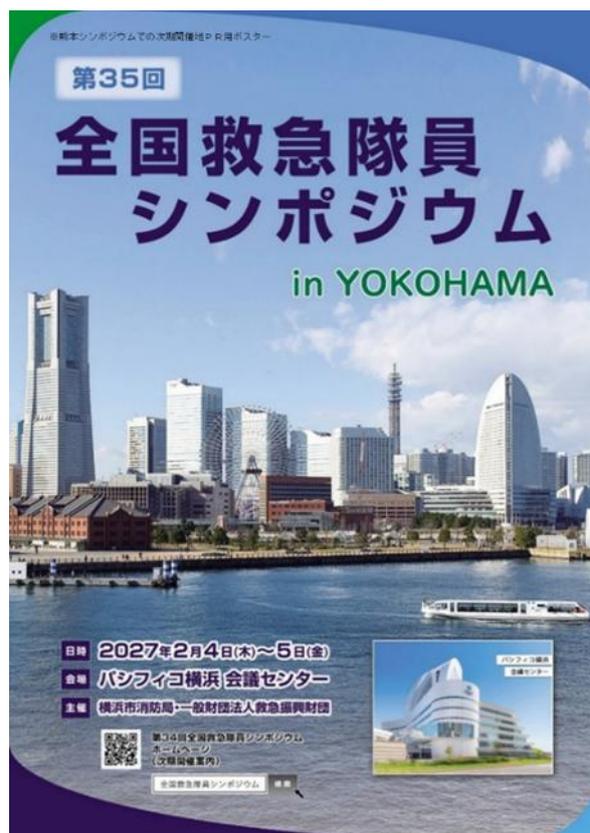
### ■第35回全国救急隊員シンポジウム開催概要

○開催日時

令和9年（2027年）2月4日（木）から  
5日（金）まで

○開催場所

パシフィコ横浜会議センター  
（横浜市西区みなとみらい1-1-1）



## ◆ 「第37回全国消防本部対抗駅伝競走大会」の開催結果について

### 東京消防庁（東京）

東京消防庁陸上競技部会では、全国の消防本部などの同好者との交流を図り、相互の理解を深め、今後の消防業務に資することを目的として、令和8年2月21日（土）に東京都立川市の国営昭和記念公園において、恒例の全国消防本部対抗駅伝競走大会を開催したところ、総務省消防庁、全国消防長会をはじめ、全国から多数のご参加をいただき、盛大に開催することができました。

来年度以降につきましても、さらに盛りあがりのある大会を目指していきたいと考えておりますので、引き続きご理解、ご協力をお願いいたします。

#### 1 参加チーム

54チーム（オープン参加8チームを含む。）

#### 2 チーム成績

順位	消防本部等名	記 録	順位	消防本部等名	記 録
優勝	東京消防庁A	1時間17分33秒	6位	駿東伊豆消防本部	1時間23分42秒
2位	埼玉西部消防局A	1時間20分10秒	7位	岳北消防本部A	1時間24分22秒
3位	大阪市消防局	1時間21分23秒	8位	出雲市消防本部	1時間24分56秒
4位	伊丹市消防局	1時間22分31秒	9位	さいたま市消防局	1時間25分07秒
5位	岡山市消防局	1時間22分56秒	10位	柏市消防局	1時間25分25秒

#### 3 個人成績

賞名	区 間	氏 名	消防本部等名	記 録
区 間 賞	1 区	宮本 尚樹	東京消防庁A	15分19秒
	2 区	蟹江 達樹	埼玉西部消防局A	15分38秒
	3 区	南 翔太	東京消防庁A	15分34秒
	4 区	吉澤 匡一	埼玉西部消防局A	15分20秒
	5 区	榎本 大修	東京消防庁A	14分57秒
最優秀賞		榎本 大修	東京消防庁A	14分57秒

#### 4 開催風景



【開始前の記念撮影】



【スタートの様子】

#### 5 来年度の実施予定

令和9年2月27日（土）に国営昭和記念公園（東京都立川市緑町3173）で実施予定

## ※ お知らせ

消防本部所在地に変更がありましたので、ご連絡いたします。

【消防本部コード 20901】 最上広域市町村圏事務組合消防本部

- 1 所在地  
〒996-0051  
山形県新庄市大字松本827番
- 2 移転日  
令和8年3月12日（木）
- 3 その他  
電話番号およびメールアドレスの変更はございません。

## 消防本部の“今”を「週間情報」へ

～身近な出来事、旬な情報を週間情報で発信しませんか？～

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

### 【特徴】

・原則毎週刊行しており、速報性のある広報となっています。

### 【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度、写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

【問合せ】：「週間情報」担当・企画課 吉田 TEL:03-4500-6622

原稿データは、[weekly@fcj.gr.jp](mailto:weekly@fcj.gr.jp) に送信願います。



## 機関誌「ほのお」掲載記事募集中

全国の仲間に共有したい取り組みとその情熱を「ほのお」へお寄せください

全国消防協会では、機関誌「ほのお」への掲載記事を募集しています。

- ・**トップ・セカンド記事** 完成原稿は不要 掲載希望内容の概要（企画案）を提出
- ・**消防ワイド** 写真中心の自由投稿 文章：Word100字程度／写真：JPEG1枚

【問合せ】：企画課・中西 TEL 03-4500-6622

トップ・セカンド記事：[kikakoho@fcj.gr.jp](mailto:kikakoho@fcj.gr.jp) 消防ワイド：[honoo@ffaj-shobo.or.jp](mailto:honoo@ffaj-shobo.or.jp)

※添付5MB超は分割送信



## 消防デジタルイラスト募集中!!!

～あなたのイラストが全国の消防業務を支える力となります～

- あなたのイラストが、全国の消防本部で、広報・啓発・訓練・教材作成など、消防業務の様々な場面で活用されます。
- 全国消防長会ホームページの「令和版 消防デジタルイラスト集」に掲載されます。
- ホームページ掲載時には、「〇〇消防本部〇〇作」と作者名を明記し、あなたの名前と作品が、全国に紹介されます。

詳細は、[全国消防長会ホームページ](#)を検索!!!

